

県境を越える移動の自粛が全面解除され、人の動きが活発化している。新型コロナウイルスの影響で落ち込む観光業の回復に向け、官民一体となって地域経済の再生を進めたい。

県内観光地では人の姿が戻りつつある。

千葉県の公表データから、県内主要地点の滞在人口の推移をみると、県をまたぐ移動制限が解除(6月19日)されたのちの観光地周辺の人口は、5月初めから大きく改善した。制限緩和後は、鴨川シーワールドが県外の来場者の受け入れを再開し、東京ディズニーリゾートも営業をスタート。主要観光施設の来場者受入れ拡大・再開に、今後の観光需要の回復が期待される。

こうしたなか、県内自治体では、観光の本格回復を促すため、独自の旅行支援策を打ち出している先がみられる(図表2)。鴨川市では、市内の提携宿泊施設に宿泊すると市内各所で使えるプレミアム商品券5,000円分をプレゼントする「鴨川元気キャンペーン」を6月26日から開始し、市内宿泊施設では客室稼働率の底上げにつながっているとの声が聞かれる。また、千葉市や南房総市でも、観光業界を後押しするキャンペーンが相次いでスタートしている。

千葉県では、政府による観光需要喚起策「Go To トラベルキャンペーン」(図表3)と連携して県内宿泊施設への誘客につなげるため、県内の宿泊施設を利用した人を対象に、抽選で1人当たり5千円をキャッシュバックする『ディスカバー千葉』宿泊者優待キャンペーン事業(総額10億円)など、約20億円を6月補正予算で計上した。

施設側も「新たな生活様式」の下での誘客に手をこまねてはいない。マザー牧場が、自家用車に乗ったまま園内を周遊できる「ドライブスルーファーム」方式を導入したほか、イオンモール幕張新都心などのシネマコンプレックスでは、車に乗ったまま映画を楽しめる「ドライブインシアター」を始めて好評を得ている。

海外では新型コロナウイルスの感染が収まらず、訪日客の回復はしばらく期待できない一方で、国内客の旅行需要は、渡航制限が続く海外旅行から国内旅行にシフトしつつ、感染リスクを減らすため、当面は「近場・短期間」または、貸別荘など「人と接しない場所に長期間」に二極化しそうだ。

コロナ禍に喘ぐ県内観光業の回復支援に向け、官(支援策)・民(休暇取得促進、働き方改革)が一体となって地域経済の再生を進めたい(大塚)。

【図表1】千葉県内の滞在人口分析

	前年度同時期との比較 (%)	
	5月4日(祝)	6月27日(土)
成田駅周辺	▲ 45.1	1.6
佐原駅周辺	▲ 28.8	23.5
湾岸幕張PA周辺	▲ 56.4	▲ 7.5
うみほたるPA周辺	▲ 90.0	▲ 28.7
稲毛海浜公園周辺	▲ 76.3	▲ 38.8
飯岡海水浴場(旭市)	▲ 41.2	▲ 21.1
釣ヶ崎海岸周辺(一宮町)	▲ 32.2	80.9

※auスマートフォンユーザーのうち、個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行い集計。

(出所)千葉県HP(KDDI Location Analyzer)よりちばぎん総合研究所が作成

【図表2】主な支援策

自治体	主な内容
千葉県	県内宿泊施設を利用した人を対象に、抽選で1人当たり5千円をキャッシュバック など
千葉市	宿泊料金を1人1回、50%割引(上限1万円)
鴨川市	市内の提携宿泊施設に宿泊すると市内各所で使える「プレミアム商品券5,000円分」をプレゼント
南房総市	市内宿泊施設の宿泊料金が最大3割引になるクーポンを発行

【図表3】「Go To トラベルキャンペーン」概要

利用場所	国内旅行に利用可能。海外旅行は対象外
期間	7月22日から
支援額	旅行代金総額の35%分を補助。9月以降は、旅行代金総額の15%分が、土産物店や観光施設などで使用できる地域共通クーポンとして配布される。ただし、1人1泊あたり合計2万円、日帰り旅行は合計1万円が上限
その他	連泊や利用回数の制限なし

(出所)図表2~3:各種資料よりちばぎん総合研究所が作成